

「近江の絵馬」現況調査

吉村
俊昭

Title :

Status Survey of Omi's Emmas

Summary :

This investigation aims whole research of Ema (horse painting on wood panel) in Shiga prefecture with special research support fund of Seian University of Art and Design in 2013. Although many institutes and researchers including Otsu Museum of History have investigated Emass in Shiga prefecture, whole research of Ema has not completed for several causes such as Ema itself is dedicated as religious object or Ema is hidden in storage because of damage. This paper summarizes the first step of whole research of Emass in Shiga prefecture in which I investigate presence, condition of preservation, regional characteristics and pictorial characteristics generally.

一、はじめに

受験・良縁・家内安全などを願った普段なじみのある絵馬は、それなりの規模の社寺に行けばいつでも絵馬掛けに見ることができる。しかしこれらの商業的な絵馬は今回の対象ではない。いにしえより奉納され今に伝えられている絵馬は、信仰の対象であったり奉納物ということから、何時でも誰でも見ることができ簡単に絵馬の状態を確認ができるものではない。狩野派の何某といった名の通った絵師でもない、在所の絵馬師によるものであればなおさら表に出てくるものではない。民俗調査などと同じく各所での聞き込みと、宮守の方や村の古老など人々との繋がりが隠れた絵馬の発見につながるという。

滋賀県内の絵馬については、県内各博物館、美術館などの研究機関や学芸員、研究者の方々により堅実な研究調査が行われ成果が公表されている。今回の研究調査は既に明らかにされている絵馬の現況を確認するとともに、社寺建造物の一部のようにひっそりと所蔵されている絵馬にも光を当てて、その分布や願主、祈願内容、絵画的特徴について三年の期間をかけて悉皆調査を目指したものである。ただ、絵画的という言葉のとおり

吉村 俊昭

懸額すべてでなく絵が描かれた懸額に限定し、算額、発句奉納額などは対象外とした。

県内を1. 大津を含む琵琶湖の西部地域、2. 草津・近江八幡以南の南東部地域、3. 彦根・米原・長浜の琵琶湖東部から北部地域と大きく三分割して、二〇一三年度は湖東、湖南地域にあたる草津・守山・栗東・野洲・近江八幡・竜王町・愛荘町・東近江市・日野町・湖南市・甲賀市を対象地域とした。しかし、それでもなお広範囲のため年度内に予定地域を網羅するに至らず、二〇一四年度以降も他地域の調査と合わせて継続した調査が必要となっている。

調査実施地域と社寺名（調査日）

愛荘町

- 愛荘町歴史文化博物館（2013／4／20・6／23・7／7）
 豊満豊満神社（2013／4／20・6／23）
 中宿河脇神社（2013／7／7）
 愛知川大日堂（2013／6／23）
 長野大隣神社（2013／6／23） 絵馬現存せず
 島川島川神社（2013／6／23） 絵馬現存せず
 日野町
 村井馬見岡綿向神社（2013／4／20・5／3・3／13）
 十禅師比都佐神社（2014／2／23）

所蔵情報あるも絵馬確認できず

清田久埜神社（2014／2／23）

下駒月日枝神社（2014／2／23） 絵馬現存せず

鎌掛八坂神社（2014／2／23）

剥落損傷がひどく絵の確認が困難

近江八幡市

宮内町日牟禮八幡宮（一部のみ2014／5／2）

東近江市

百済寺町百済寺（2012／12） 予備調査として実施

甲賀市

水口町新城八幡神社新城観音堂（2013／9／29）

水口町嵯峨八坂神社（2013／9／29）

水口町山山村神社（2013／9／29）

甲南町森尻矢川神社（2013／10／27・11／2）

絵馬現存せず

甲賀町油日油日神社（2013／10／27）

信楽町牧日雲神社（2013／10／27・11／2）

甲南町森尻矢川神社境外社八坂神社（2013／11／2）

信楽町上朝宮三所神社（2013／11／2）

大津市

羽栗須賀神社（2013／5／3）

園城寺町三井寺（園城寺）観音堂

（2014／5／20・7／5）

坂本日吉大社（2014／5／20・7／5・7／16）

高島市

朽木能家 山神社（2013—1） 予備調査として実施

二、現存絵馬分布状況とその特徴

（二〇一三年度調査地域）

滋賀は全域が京都文化に近似して見られがちである。確かに京都に隣接する南部・西部地域は、交通や経済の繋がりがから京都文化の影響が非常に大きい。湖南・湖東地域、特に草津より分れる東海道・中山道沿いでは三重・岐阜に繋がる東の文化との繋がりが強く、現在の米原付近中山道鳥居本より分れる北部地域、北国街道^{（注1）}沿いは福井若狭の文化的影響がみられ、元々の滋賀の文化を基盤に琵琶湖を挟み大きく三方面の影響を受けた文化環境にある。まだ調査は緒に就いたばかりで断定はできないが、既存の資料からの印象は、絵馬の絵画的特徴においてもこの三方面の文化的影響が地域特徴としてあらわれていると考えられる。

さらに他地域との相違点として特徴付けられるのは、近江商人との関わりである。旧蒲生郡（八幡・岡田家、西川家 日野・中井家）、旧愛知郡（愛知川・枝村）、旧神崎郡（五個荘・能登川）などの近江商人ゆかりの地の社寺に、京都画壇の流れを汲む絵師の手による絵馬が多く奉納されている。

東海道と中山道を結ぶ御代参街道^{（注2）}沿いの日野町村井馬

見岡綿向神社は日野商人中井家と強いつながりがあり、境内絵馬殿には谷田輔長の祭礼渡御の図を筆頭に洗練かつダイナミックな大絵馬が数多く懸けられている。また愛荘町豊満神社には中型であるが技量の高さがうかがえる数点の絵馬や歌仙図があり、願主に大阪の地名が見られる。いずれも奉納者として近江商人の財力と篤い信仰心がうかがえ、題材に流行りの風俗や古今東西の故事来歴を扱った内容も多く、氏子も含めてこの地域の庶民の文化教養の高さが推察される。

文化財としての馬見岡綿向神社や近江八幡市日牟禮八幡宮の絵馬は、願主奉納者や絵師名が明らかで近江の絵馬としてよく知られたものである。今回初見となる甲賀市水口町八坂神社の曳馬図は、願主上州前橋山田屋治兵衛とあり、関東方面での近江商人の活躍の歴史から、出店を開いた近江商人が故郷の所縁の神社に奉納したものとみえる。湖があっても海に面しない滋賀であるが、数は少ないものの船絵馬もある。おもに北前船による海運で財を成した八幡商人による奉納である。東海道沿い甲賀市甲賀町油日神社は、拝殿に三十六歌仙図全歌仙揃って懸けられている。絵師の技量も高く保存状況も良好で、再調査が必要な絵馬のひとつである。水口神社など甲賀式内八座の一部にも絵馬が現存する。

以上は県社、郷社などにみる特徴だが、中山道沿い愛荘町中宿河脇神社など村社にも大絵馬が散見できる。それなりの技量の絵であるが、使用している材や絵の具はやや見劣りがする。

甲賀市水口町の新城観音堂には観音信仰とかかわる小絵馬群が残されている。在所の願主によるおびただしい数の馬図をはじめ判じ物、拝み絵、武者絵などA5サイズほどの小さな絵馬が小さな堂の壁一面に懸けられている。大坂など遠隔地の願主名もあり、各地の人々の観音巡礼安全祈願もその目的の一つであったと思える。絵は大津絵を思わせるような素朴、様式的で近隣在所の手すさび程度の絵馬師の存在があつたのであろう。

二〇一四年度は大津市、安曇川若狭街道沿い、湖西の大津から敦賀に抜ける北国海道^(注3)沿いの地域、また琵琶湖水運の湖西・湖北の津に関わつた地域の調査にとりかかっている。大津市周辺には延暦寺、石山寺、三井寺などの古刹や全国の日吉・日枝・山王の総本山日吉大社などがあり京都の文化を色濃く反映した地域である。

大津市三井寺(園城寺)観音堂には、優れた絵師による贅を尽くした多くの絵馬が存在する。それらの大絵馬は内陣に懸けられているため、煤による変色があるものの保存状態は比較的良好である。京都に隣接し文化圏を一にすることと日本仏教の礎の一つを作り上げてきた名刹ゆえに、絵師たちも京都絵師として活躍あるいはそれ近く名を馳せていた絵師といえる。高野七左衛門など一流絵師の手によるものが多く、時代も元禄年間から明治まで各時代の絵馬が揃っている。日吉大社は総本山であるが絵馬は数点で無いに等しい。しかしその数点の中に長澤蘆雪の猿図があり、蘆雪研究の年代決定の重要作品となつてい

る。この絵馬の復元に成安造形大学が取り組むことになっていて、二〇一五年内には研究と合わせて成果発表の機会を迎えるであろう。天台宗修行道場葛川息障明王院にも特筆すべき幾つかの絵馬が存在する。事前調査の段階では福井若狭の影響も考えられ、年度内に再度調査を行う予定である。高島市マキノ町海津天神社狩野山楽の絵馬は別格として、高島市にもいくつかの神社に絵馬が存在する。今後、湖西から湖北にかけての調査で福井若狭の影響がどれほどあるか確認できるであろう。

三、写真による記録撮影事例

大絵馬は奉納物であるとともに、その大きさゆえに取り外して撮影することが困難なものが多い。今回の調査では、取り外して移動が可能なサイズの絵馬に限って実験的に高レベルのデジタル撮影と赤外線撮影を試みた。

愛荘町中宿 河脇神社

社殿改修後、神社横公民館内に保管されている絵馬を愛荘町立歴史文化博物館門脇顧問のご協力ご指導のもと撮影を行う。赤外線撮影により裏書等ある程度明確に読み取ることができ資料作成として効果的であることが明らかとなった。また、学生の撮影技術の向上にも有用であった。

日野町 馬見岡綿向神社

本殿床下に収蔵されていた繋馬図のデジタル撮影と赤外線撮影を行う。剥落がひどいもののその全容を確認でき、今後可能であれば神社の了解を得て復元模写等で詳細を明らかにしたく思う。



愛荘町立歴史文化博での調査



綿向神社繋馬撮影風景



愛荘町河脇神社撮影風景

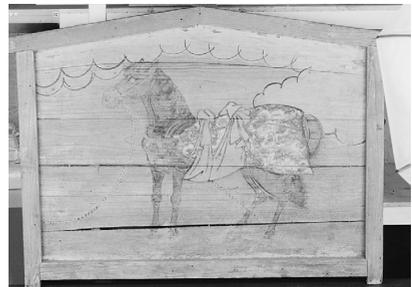
四、二〇二三年度調査社寺と絵馬の概要

①日野町 馬見岡綿向神社（県社・式内社）

近江鉄道日野駅東四キロの日野町村井。延暦十五年（七九六年）に里宮として現在の地に遷祀されたと伝える。鎌倉時代から安土桃山時代にかけて領主蒲生一族の庇護を得て、江戸時代には近江商人に崇敬されてきた神社である。大祭日野祭は、毎年五月二日から四日の三日間に行われ、三社の神輿、十六基の曳山車による絢爛豪華な祭礼は県の無形文化財に指定されている。絵馬殿の縦二メートル横四メートルの「祭礼渡御の図」は、蒲生氏郷公誕生の祝いとして祖父の定秀公により復興された祭



綿向神社繋馬図



綿向神社繋馬図（赤外線）

②愛荘町 豊満神社（県社）
 源頼朝や豊臣秀次など多くの武将が戦の必勝を祈願したこと
 から勝運の神として世に知られ、江戸時代には彦根城主井伊氏
 などにより庇護されてきた。また、息長足姫命（おきながたら

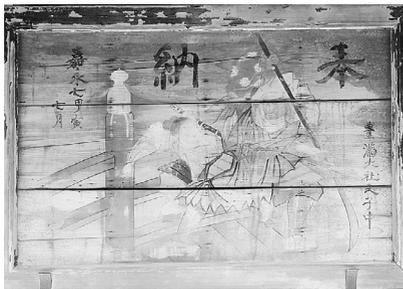


綿向神社祭礼渡御の図



綿向神社馬図

礼の様子を、江戸末期の文化九年（一八一二年）に日野出身の
 絵師高田敬輔の流れをくむ谷田輔長が描いたもので、城主蒲生
 下野守定秀と家来衆をはじめ、威儀もの、芸能集団、神社や寺
 に仕える人々など緻密で力量のある筆遣いで見事に表現されて
 いる秀作である。他に馬図をはじめ中、大型の絵馬が多くあり
 いずれも力量のある絵師が描いたと思われる（文化年間〜江戸
 末期）。



豊満神社牛若と弁慶

しひめのみこと・神功皇后）が
 祭られていることから、大絵馬
 の武者絵が多くある（江戸末期
 『明治』）。三十六歌仙のうち是
 則のみ残されている。大絵馬は
 拝殿に懸けられているため保存
 状態は良くない。



豊満神社調査風景



豊満神社鞍馬山

③東近江市 百濟寺

聖徳太子が八日市で東の山中に瑞光を見みて、現在の百濟寺の場所を訪れ幹が半分の巨木が立っていた。そこで太子は幹に十一面観世音菩薩像を彫られた（推古十四年六〇六年）という縁起が伝えられている。石引図絵馬は信長が百濟寺焼討後、敵方の六角氏を再起不能にするため、百濟寺の石垣の巨石を引抜き安土山の麓へ搬送する光景を描いたものと伝えられる。天正七年の繫馬は躍動的な描写である。



百濟寺石引図

④愛荘町 河脇神社（村社・式内社）

由緒は定かでない。絵馬は社域内公民館に保存。桜に猿、関羽、渡辺綱と鬼などの絵馬が残る。裏書や願主などから資料的価値は高い。保存状態は比較的良好である。



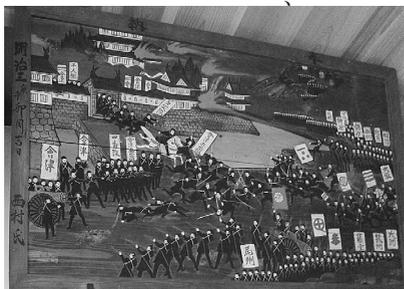
河脇神社猿図

⑤愛荘町 大日堂

もとは寺の一部であったが、宗派の変遷から縁者により管理されている堂。戊辰戦争、義経他押絵などの絵馬が残る。保存状態は比較的良好である。



河脇神社鬼と渡辺綱



愛荘町大日堂戊辰戦争図



河脇神社鬼と渡辺綱 裏面参詣図赤外線写真

⑥ 甲賀市水口町 八幡神社新観音堂

本尊馬頭観音。堂内にA5サイズ程度の小絵馬が百数十点あり、集中してあるのは地元の願主奉献のほか、街道沿いで観音巡礼の道中安全祈願や本願成就お礼として奉納されたものかと思える。多くは拙い作風だがしつかり書き込まれた絵馬もあり、絵師の技量も様々である。



水口町新観音堂小絵馬

⑦ 甲賀市水口町 八坂神社（村社・式内社）

一点だけであるが関東に出店をしていた近江商人の奉納か。前橋の地名と願主名あり、材もよく技量が高い。京都の絵師に由来のものと思われる。



水口町八坂神社曳馬図

⑧ 甲賀市水口町 山村神社

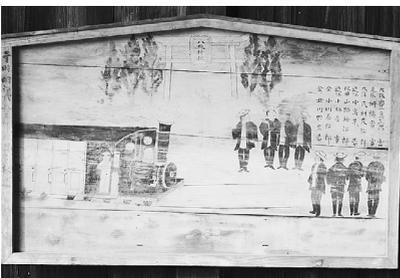
占い石の靈験で信仰される。小さな絵馬舎に珍しい江戸町人風俗で一枚に描かれた三十六歌仙絵馬のほか数点あり。



水口町山村神社調査風景

⑨ 甲賀市甲南町 矢川神社境外 八坂神社 矢川神社は郷社・式内社）

矢川神社の創建は、聖武天皇の紫香樂宮造営時と伝わる。延喜式内社甲賀八座の筆頭。外社八坂神社には明治期の鉄道開通記念の鉄道絵馬あり。状態良好である。



八坂神社鉄道絵馬

⑩甲賀市甲賀町油日 油日神社(県社・式内社)

油日岳をご神体とする社。油日岳の山頂に油日大明神が降臨した際、一大光明を発したため、油日の名がついたといわれる。油日神社はその里宮。白洲正子氏のかくれ里で取り上げられ、神像等が紹介される。拝殿の四方に三十六歌仙の扁額がある。剥落があるものの三十六歌仙欠損なく保存状態は概ね良い。



油日神社三十六歌仙 柿本人麻呂



油日神社三十六歌仙 在原業平

⑪甲賀市信楽町 日雲神社(村社)

古い絵馬が現存するも、雨に打たれ苔むしてはなはだ保存状態悪い。

⑫日野町鎌掛 八坂神社

社殿回廊に比較的大型の絵馬があるも、大半が剥落してはなはだ保存状態悪い。

五、二〇一四年度調査社寺と絵馬の概要

(調査予定を含む)

①大津市 三井寺(園城寺) 観音堂

長等山園城寺(おんじょうじ)。天台寺門宗の総本山。平安時代、第五代天台座主・智証大師円珍和尚の卓越した個性によって天台別院として中興され、以来一千百余年にわたってその教法を今日に伝えてきた。観音堂には、渡辺綱をはじめとする武者絵や中国故事に関わる多くの大絵馬が残されている。中でも内陣の観音堂落慶図(元禄三年一六九〇年)は、建築資料として重要なものであるとともに民俗資料としても貴重なものである。高野七左衛門筆の曾我兄弟仇討図(元禄三年)は北野天満宮山本理兵衛筆五郎丸抱止曾我時宗之図(寛永二一年一六四五年)を粉本にしている。また、明治元年の小型の絵馬であるが、琵琶湖のものとしては珍しい海難(江州和仁崎での難破と観音信仰)が描かれている。



三井寺再建図部分 2



三井寺再建図部分 1



扁額規範五郎丸抱止曾我時宗之図



三井寺曾我兄弟仇討図



三井寺海難図

② 大津市 日吉大社（官幣大社・式内社）

東本宮と西本宮の二区域からなり、「山王七社」「山王二十一社」ともいわれ、摂社・末社が多くある。全国にある日吉、日枝、山王三八〇〇社の総本山。創祀は古事記に記されるほど古く、地主神である大山咋神（おおやまくいのかみ）とその妻、鴨玉依姫神（かもたまよりひめのかみ）を祀ったのが始まりとされる。その規模の割に日吉大社には絵馬はほとんどないが、蘆雪研究の落款年代判定として貴重な長澤蘆雪の絵馬を調査することになり、同時に復元も行うことになった。剥落がひどく絵は判別しにくいのが、日吉の神の使いとされる猿の親子が描かれていることから復元の成果が期待されている。



日吉大社 長澤蘆雪 猿図

③ 大津市坊村 葛川息障明王院

天台宗。平安時代初期に、延暦寺の僧であった相応（八三一〜九一八年）が回峰行の道場として開いた。多くの絵馬が外陣に懸けられている。万治年間の鬼と武人の首相撲や延享年間の合戦図などがあるが、画風にはやや京都とは違ったものが見取れる。詳細調査予定。

④ 大津市伊香立 還来神社

小絵馬あり。詳細調査予定

⑤ 高島市朽木 山神社

小絵馬多数存在。保存状態は芳しくない。詳細調査予定。

六、おわりに

二〇一三年度の調査については、「平成二五年度成安造形大 学特別研究助成」を得て、調査に必要な資料および機材の充実を図った。交通費等の補助もあり内容の濃い調査を行うことが出来た。

調査が終了した地域では、これまでに公開されていない絵馬や、村の鎮守にひっそりと掲げられている絵馬の存在があり、人々の信仰と文化の継承の中で守り継がれる絵馬奉獻の歴史を見出すことができた。まだまだデータ量は十分とは言えないが

地域的特色も把握できる内容であった。

調査の資料作成としては資料のデータ化を進めているが、なかでも重要となる写真データについてはメディアデザイン領域の学生の協力を得て撮影を行い、さらに調査した絵馬の一部ではあるが簡易赤外線撮影によるデータも加えることができた。スタジオから出て様々な環境の下での撮影は困難なことがあったが、メディアデザイン領域金澤教授の指導のもと撮影機材の充実と撮影技術の習得が図られ、学生の学修領域の拡大につながったことは調査に付随した二次的な成果になったといえる。

註

注1 北国街道Ⅱ中山道鳥居本から別れて長浜から福井につながる街道。

注2 東海道土山と中山道小幡結ぶ伊勢参拝者の近道。

注3 北国街道Ⅱ大津札の辻で東海道から別れ、湖岸沿いに高島から敦賀を結ぶ道。

参考文献

- ・ 合田珉和・北川春成縮図 「扁額軌範」全五巻 吉野屋大谷仁兵衛 文政二年
- ・ 渡辺黄鵠著・渡辺対岳縮図 「敞島絵馬鑑」全五巻 天保

三年刊 嘉永元年後印

・ 臨川書店 「新修京都叢書」第八巻 扁額軌範・花洛絵馬 評判 1994年第2刷

・ 岩井宏実編 「絵馬秘史」 日本放送出版協会 1979年

・ 木村至宏 「図説近江古寺紀行」 河出出版社 1995年

・ 司馬遼太郎・白洲正子・水上勉 「近江路散歩」 新潮社

1988年

・ 苗村和正 「新湖国物語」 文芸社 2011年

・ 信多純一 「祈りの文化―大津絵模様・絵馬模様―」 思文閣出版 2009年

・ 大津市歴史博物館 「庶民の祈り―近江の絵馬― 1991年

成安造形大学附属近江学研究所紀要 第4号

発行日 平成27年3月23日

発行 学校法人京都成安学園 成安造形大学 附属近江学研究所
〒520-0248 滋賀県大津市仰木の里東4-3-1
電話 077-574-2118

発行者 木村 至宏

編集 成安造形大学附属近江学研究所

印刷所 宮川印刷株式会社

©Seian University of Art and Design 2015

ISSN 2186-6937